



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

この号の内容

【観光関連】

- 1 はじめに
- 2 観光について
- 3 観光について質問
- 4 観光について答弁
- 5 政策の展開
- 6 政策の展開 質問と答弁
- 7 広報活動 質問
- 8 広報活動 質問2
- 9 広報活動 答弁

はじめに

鷹野雅生議員 八幡みらいクラブの鷹野雅生です。
しばらくご清聴のほどよろしくお願いいたします。

6月18日に発生いたしました大阪北部を震源とする地震により被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

私は今回も観光について質問したいと思います。

2018年に入り、訪日客数は1月では前年同月比0.9%増の250万1,500人、2月はさらにふえて前年同月比23.3%増の250万9,000人になり、2016年の16位から2018年にはさらにランクアップするのではないかと考えられます。

トップ、健康福祉、暮らし、子育て、教育、観光、産業、市政情報の項目があります。八幡市を元気あふれるまちとし、よそから来たくなるまち、住みたくなるまちにしてしなくてはなりません。

観光、産業と併記されていますが観光の取り組むということは、いつも申しているように、来たくなるまち、住みたくなるまち、つまりは魅力あるまちにしようというわけですから、行政の立場からまちづくりの根幹である将来の人口対策にもつながってまいります。

何も対策を講じなかったら各府県にとっても同じことが言えると思います。大きな流れはあるにしても、流れを緩やかに、小さくする、流れをせきとめてみせる知恵と努力が必要です。

本市の過去、現在、みらいを将来を展望した土地、京都府下にあつて、特色ある、存在感のある市として存続していくために、今こそ観光政策の充実を図り、積極的に推進していくことが何より大切だと考えている次第です。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

政府観光局のホームページを見ましたので、本市八幡市のホームページを開いてみました。期待を込めて観光、産業の項目を開いて見ました。

背割堤の満開のさくらと流れ橋を組み合わせたきれいな写真の下に、見る、遊ぶ、食べる、観光パンフレット、動画、八幡市観光協会、計画などの項目が続きます。

各項目を見てまいりますと、見るの項目は環境経済部商工観光課より発行された八幡市の魅力を伝えるウェブサイト八幡ストーリーができました。

2018年5月30日の更新の期日があり、その八幡ストーリーに基づいた新しいパンフレットには観幸のまち八幡市が発表されております。

拝見して第一印象は、よくできた良いパンフレットだと思いました。また、八幡ストーリーでは八幡市の魅力がよく伝わりました。そのほかに今年の情報も2月14日に空中茶室のシンポジウムの開催、6月8日に流れ橋通行どめの解除のお知らせ、あとは2017年の行事と従来の神社、仏閣の名所案内です。

「遊ぶ」の項目は、2017年10月13日、駅前観光案内所等の観光スポットで公衆無線LANがご利用いただけます、それ以外は2016年以前の情報です。

「食べる」の項目は、なし狩り園閉園のお知らせとして、2017年9月6日、ぶどう狩りが2016年9月7日とあります。

「動画」の項目はずいきみこし、何と2014年10月7日、鬼やらいに至っては2013年3月15日です。太鼓まつりは2012年8月15日です。

「八幡市観光協会」の項目は2018年4月3日、タイトルに使われている八幡再発見、観幸フォトコンテスト2017入賞作品とあり、計画などの項目として市営駐車場にかかわる経営比較分析表の公表について、2018年4月6日と出ていました。また、住宅宿泊事業について、2018年3月16日に公表されています。

全体的に見て、出たばかりの八幡ストーリーや、それに基づく観光パンフレットを省いては、情報量及び情報の鮮度に乏しいものでありました。

率直に言わせていただきます。落胆いたしました。

八幡市のホームページはインターネットで訪れる言うなれば表玄関です。

表玄関はきれいで魅力的でなくてはなりません。表玄関に相当する観光、産業の項目を開けば、八幡市の魅力がぱっとわかって伝わってほしいです。

最新情報にあふれ、インパクトのある写真とコメントで見る人の心を驚掴みにするぐらいの迫力で迫ってほしいのです。せめて、「見る、遊ぶ、食べる、」の項目は、ホットな目をひきつける情報を途切れることのないようにしていただきたいと思います。

「見る」の項目は背割堤でいけます。夏の新緑のさくらはダイナミック、迫力で迫ってきます。

秋のさくらはドラマです。人生です。冬の桜は葉っぱ1枚もありません。寒さも防ぎようもないさくらの姿をじっと見ているだけで力強さが伝わってきます。

「遊ぶ」の項目は、ケーブルに乗せて男山へ案内すれば絵になります。

「食べる」の項目は、松花堂弁当の発祥が八幡市であることを知らない人が多いと思います。

「動画」の項目は流れ橋を歩くだけで絵になります。

先ほど申し述べました訪日客が京都の次は八幡市へ行ってみよう、八幡市へ行けばもっと楽しいことがありそうだと思ういただけるようなホームページを提示していただきたいのです。

観光について -質問-

八幡市観光協会のホームページを開いてみました。挨拶文にはこう書かれています。
京都と大阪から約 30 分の八幡市、ウィークエンドにハイキング気分でちょっと散策。歴史を訪ねながら史跡をめぐり、木津川、宇治川、桂川の三川合流部に広がる自然のパノラマや緑豊かな男山で森林浴を楽しんだり、四季を通じて八幡市は魅力いっぱいがあります。
きれいな文章です。八幡市の全体を丁寧に表現していますが、行ってみようと思わせるインパクトに欠けると感じるのは私だけでしょうか。

「八幡丸ごとナビ」とあります。トップ、お知らせ、見どころ、イベント情報、お薦めコース、銘菓、お食事の項目が並んでいます。見所の項目が神社仏閣、観光スポット、八幡の花、紅葉として並べてあり、観光スポットの多いこと、見た人は驚くと思いました。
お薦めコースを見ると、駅近ワンポイント観光、ちょこっと散策コース1、ちょこっと散策コース2、東高野街道コース、パワースポットめぐり、お薦め散策ルートと項目があります。
駅近ワンポイント観光の項目を見ると、背割堤に続いて飛行神社、安居橋、高麗神社、航海記念塔(こうかいきねんとう)神応寺、杉山谷不動尊と出ています。ちょこっと散策コース1、2の項目では、一の鳥居から安居橋まで、八幡市駅前からそう遠くない場所 10カ所を選んでおられます。八幡市が観光のまさに宝庫であることがよく伝わってきます。これだけたくさんあるのですから、コメントでよりインパクトのある言い方にすればと思う箇所が気になりました。

手間ひまかけた市のホームページである観光協会のホームページです。八幡市へのアクセスはさまざまな方法がありますが、他府県の人はずは八幡市と開く人も多いでしょう。開いた八幡市のホームページから関連の観光協会や各施設のホームページにつながっていくような魅力のインパクトにあふれたホームページであることを願っています。

そこで何点かお伺いします。

① ホームページ作成部署について

⇒市のホームページ作成部署はどこになりますか。専門につくっておられる方なのか、関連業務として担当しておられるのか、何人ぐらいで担当していますか、最低何日たったら更新するといった規定はありますか。掲載先と連携はとれていますか。

② 背割堤への対応について

⇒国内外から人気の高まった背割堤のさくらを見たいと、八幡市駅から背割堤に向かう長い行列が続いていました。ですが、駐車場がないので、障害者や高齢者は行きたくても行けないという声が多かったと聞いています。来年以降どう対応されるのか、お伺いします。

③ 男山ケーブルの広報について

⇒御幸橋から見る木津川は京都のどこにもないまさに絶景です。名前をつけて観光スポットとしてクローズアップされることを提案させてください。さくらの期間中だけでも京阪の特急をとめていただきたいと思いますと思いましたが、せっかく八幡市に来てくれた観光客に男山ケーブルで山頂への広報ができていないように思いました。
背割堤を訪れた人数データを持って、京阪電鉄に積極的に働きかけていただきたいと思いますのですが、いかがですか。ご意見をお聞かせください。

観光について **一答弁**

① ホームページ作成部署について

市のホームページ全体の包括は商工課でございますが、個別情報につきましては各担当部署が対応しております。

観光情報に係ることにつきましては、商工観光課が担当しております。

作成業務に従事している職員はおりませんが、観光振興担当者4人を中心に作成に努めております。掲載情報の更新につきましては、新しい情報、イベント開催期間等に合わせた掲載をできるよう随時作業を行っております。

また、掲載情報のそごや重複を避けるよう、関係する各所との連携には十分注意しております。

② 背割堤への対応について

背割堤さくらまつりにつきましては今年度から実行委員会として実施したものであり、ここ数年の急激な来場者の増加による来園者の安全確保、周辺道路の交通問題などの解決に優先的に取り組むため、一般者用の駐車場を閉鎖したものでございます。

そのため、タクシーや体の不自由な方などの乗降にはさくらであい館駐車場の一次利用を可能とした広報をさせていただいておりましたが、現場警備担当者への連絡不備により乗降することがかなわず、不便をおかけした旨のご指摘もいただいております。

次年度におきましても実行委員会方式での運営を予定しており、タクシー事業者等への周知方法などを実行委員会の場で検討させていただきたいと考えております。

今年インターネットで公開されたお花見人気ランキングにおいて全国3位、京都府下1位となるほど背割堤の人気は年々高まっております。このように背割堤の名前がようやく全国的によく知られるようになってきたところであり、現状では背割堤の名称を積極的に発信していきたいと考えております。

③ 男山ケーブルの広報について

この数年石清水八幡宮のさくらまつり期間中の入込客数は増加しており、背割堤から移動したケーブルで石清水八幡宮まで訪れる観光客数は確実に増加していることから、背割堤から石清水八幡宮への周遊性がある程度確保できているものと考えております。

新名神高速道路の開通

人口減少対策

アクセス課題

政策の展開

少し話題を変えますが、新名神高速道路の開通が進み、八幡京田辺ジャンクション・インターチェンジが2023年には全線開通する予定と聞いています。

これに伴って、近隣の城陽市や京田辺市に大型施設の建設が始まっています。

城陽市には日本郵政の誘致、アウトレットモールの計画、京田辺市には大型の物流施設の建設が始まっております。先ほど日本の将来推定人口が2053年には1億人割れし、何もしないでほっておくと50年後には人口が8,808万人になりかねないという人口に関する試算があると申しました。

これは社会的構造の課題となっている少子・高齢化、人口減少社会が本市にも到来するということです。

人口構造の変化は消費の縮小や税収の減少を伴い、まちの経済を縮小させ、さらなる人口減少につながっていくという悪循環を生み出します。

人口減少社会がもたらすものは何か。申すまでもなく、まちの活力の現象が衰退につながり、歳入は減る、逆に社会保障費はふえますので、行政としての立場、地方自治体に課せられた大きな課題は時代の流れをせきとめる力、人口減少を押し留め、国の政策と制度を活用して必要な税収を確保する力の強化を図っていくことが最大の課題だと考えています。

八幡市の場合は、第5次八幡市総合計画の中で、人口フレームとして、2040年には人口目標を6万5,000人以上と明確に設定しておられますが、現在と比べるとざっと7,000人減ることになります。ですから、八幡市全市民の協力のもとに、何としてでも達成していただき、できればそれ以上いていただきたいと願っています。

このテーマに立ち向かっていくための手段として、私は毎回観光を取り上げていますが、今回、新名神高速道路建設に伴って生まれてくる都市基盤整備と、新たな土地利用に向けた政策の展開を進めていただきたいということです。

八幡京田辺ジャンクション・インターチェンジは全国ともつながっていて、八幡市の主要交通網ともつながります。大きな多様な可能性が秘められていると思います。

それを活用して大きなまちづくりを進める必要があると考えます。八幡市東インターチェンジ周辺も新たな産業地となっていくことが推測されています。

八幡京田辺ジャンクション・インターチェンジの開通を控え、新たな工業、流通業、商業といった産業基盤の整備が急がれます。ジャンクションと市の中心部を結ぶアクセスも課題です。

そこでお伺いします。

政策の展開 -質問と答弁-

① 新名阪高速道路の開通について

⇒この新名神高速道路の開通をどのように活用していくのか。
八幡市としての基本的な方針なり計画があるのかどうか。
計画の中で決まっていることがありましたら、お示し願います。
新名神高速道路を利用した観光客の広報計画があるのか。

これで1回目の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

① 新名阪高速道路の開通について

新名神高速道路を利用した観光客への広報計画は現在ございません。
ただし、今年度新たに一般社団法人日本自動車連盟、通称JAF京都支部との観光協定を締結し、
ドライバーへの観光情報を新たに発信することとしております。
新名神高速道路の活用については、平成35年度、2023年度に予定されております新名神高速道路
の全面開通など、本市内での土地需要が見込まれますことから、市街化調整区域における都市的土
地利用に向けた検討を一定の条件を満たせば開始するよう、八幡市街地整備計画において産業振
興ゾーンとしてお示ししております。
本計画の基本的な方針としまして都市的土地利用につきましては、広域ネットワークを活用する計画
であること、農業施策との整合や営農希望者への対応などの条件を設定しております。
現在のところ八幡市街地整備計画に基づいたお示しできる具体のエリアや計画はございません。

ご答弁ありがとうございました。

広報活動 質問

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

ホームページにつきまして、観光協会のホームページは、いいのが出ているけれども、やはり市のホームページの観光の項目を見たときに、なるほど！というのを出してほしいと思いました。更新が古いのではいけないと思います。背割堤については背割堤のさくらの花が満開以外のさくらもどんどん打ち出してほしいと思います。

ケーブルカーについては、ケーブルがあるの知らない人が見たら、こんなところにケーブルがあるのか、そんなものだと思います。八幡市にケーブルがあるのだということをもっと知ってもらわないといけないと思います。

ケーブルカーがあるということを知らせるのも大事な情報です。それが広報だと思います。知っているだろうと思っているだけで、知らない人が多いと思います。

松花堂弁当につきましては、松花堂弁当の発祥が八幡市であることを知る人は少ないと思います。よっぽど関心を持っているぐらいの人で、通例は知らない人が多いと思います。ホットな目をひきつける情報を途切れることにならないようにしていただきたいと思います。

個別の最新案件まで手が回らない状況もあるかと思いますが、そこはご支援をいただきたいと思います。

① ホームページの今後の方針について

⇒先ほど本市のホームページの観光、産業の項目をお尋ねしたときに、八幡市のホームページは家にたとえるなら表玄関だと申しました。表玄関は美しく、人を引き寄せる魅力がなくてはなりません。玄関に相当する八幡市のホームページも美しく、人のメーテル心を引き寄せる魅力にあふれたページであってほしいです。

素材は幾らでもあります。四季は問いません。手間暇を惜しまず更新をつづけることです。表玄関に相当する観光、産業の項目を開けば八幡市の魅力がぱっとわかってほしいです。

② 広報計画について

⇒先日配布されました観光案内パンフレット、観幸のまち八幡市です。

申しましたとおり、第一印象はいいパンフレットができてよかったです。

八幡市のタイトルが大きく書かれてあって、その下に観幸のまちとありますが、観光の文字が光を観るではなく幸福の幸という字を使ってあります。

市として幸福の幸を大々的に使っていこうと決めたと同っています。それならそれで徹底的に進めることです。八幡市は観光の「こう」に幸福の幸を当てている。

それでもいいなと市民が思い、府全体に、全国に広がっていくぐらいになってほしいと思います。幸福の幸をめぐるたびというのも面白いと思います。

幸福の幸には広報の力が必要です。市民への広報、八幡市発の全国に向けての広報計画などをお尋ねいたします。

広報活動 質問2

③ 広報計画について

⇒観光の文字を幸福の幸でいくなら徹底的に進めるべきだと申しました。既に健幸の幸を視点においてツアーもできていると聞いております。観光地をめぐりながら幸せでつながら、いいことです。素晴らしいことだと思います。広報が浸透していけば、人気観光コースになり得ます。広報計画をお聞かせください。

④ 三川合流の標識について

⇒パンフレットを開くと神と仏のタイトルで石清水八幡宮の空からの写真いい構図です。その左に三川と題して三川合流の写真があり、コメントとして、八幡市は三川合流という国内ではほとんど例を見ない地形を有する地域、京都盆地から流れ出た桂川。琵琶湖から宇治川、の木津川がここで合流し、淀川へと姿を変えますと書いてあります。また、八幡ストーリーの三つの川、模型飛行機でいざ探検、三つの川が出会うネイチャースポットの物語の中に、忠八が飛行体験、飛行実験に最適と考えた河川敷は、三つの川が出会い1本の大河になる三川合流の珍しい地形。桂川、宇治川、木津川が八幡市の町で合流し、淀川となって大阪へ流れていきますと書いてあります。ところが、背割堤へ続く御幸橋の標識は淀川です。三川合流していません。合流する手前です。観光案内パンフレット、八幡ストーリーと明らかに違った表示です。さくらであい館、背割堤は観光ルートに指定されています。さくらであい館で淀川の表示を見たとき、ちょっと気づく人は、あれ、もう淀川になっていると気づくと思います。昔はそれでもよかったかもしれませんが、いまや観光橋として力を注いでいこうと一生懸命に取り組んでいるところです。間違った情報は速やかに改める必要があると思いますが、どうでしょうか。経過なども含めて教えてください。また、表示が変えられないのであれば、その説明を示すような表示がさくらであい館の中にも要すると思いますが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

広報活動 答弁

① ホームページの今後の方針について

ホームページへの掲載が情報発信の入り口になることを新ためて認識し、制度と鮮度の高い情報を掲載して閾値跡考えております。

個別の観光情報につきましては、観光協会による事業発信も重要ですので、市のホームページと観光協会のホームページの役割分担を明確にして、より魅力ある府ら他観光情報の発信に努めたいと考えております。

② ③ 広報計画について

先ほども申し上げましたように、観光に関する広報計画なるものはございません。

ただ、本市といたしましては、観光施策として観光のまちとともに、市外から訪れる観光客に対しては、本市のブランドコンセプト、茶文化薫八幡さんの門前町、神と仏、三つの川、人と人が出会うまちについても旅行会社や各所へのプロモーションの際にPRしていきたいと考えております。

④ 三川合流の標識について

淀川につきましては、河川法に基づき指定された区間としまして、琵琶湖から大阪湾までとされております。国土交通省が淀川を管理する以前につきましては、管理が滋賀県と京都府に分かれており、滋賀県域につきましては瀬田川、京都府域につきましては宇治川と呼ばれていたことから、現在もその名残として使用されていると考えております。瀬田川、宇治川ともに住民に根ざした十分な知名度があり、誤解を招く恐れは少ないものと考えております。名称のPRにつきましては、淀川の名称につきましては、さくらであい館の情報提供など国土交通省に向けた希望をしまいにしたいと思います。